

「伝える」ことの難しさ



お茶の水女子大学専任講師／臨床心理士

伊藤 いとう 亜矢子 あやこ

前回、聴くことの難しさにふれました。他人の話には、予想もしなかった相手の文脈が隠れています。勝手な独り合点は禁物。「わからない」「不思議」と興味をもって聴くのがコツです。抽象的な言葉の背後にあった詳しい事情が語られて初めて、相手のリアルな世界が立ち現れます。

こうした聴き方を支えるのは、実は「伝える」ことです。カウンセリングは「うむ、うむ」と聴いてくれるばかりで意味がない、助言も何もない、と感じたご経験があるかもしれません。でもそれは、もしかしたらカウンセラーの「伝える」働きが弱いためかもしれません。

ここでいうカウンセラーの「伝える」働きは、カウンセラー側から出てきたものを伝えることではなく、相談者自身の「語り」を伝え返すことです。それによって相手の「語り」の意味を明確化し、話を深めていきます。

内容です。こうした内容を突然「伝え」られれば、相談者は驚き、カウンセラーの文脈を把握できないかもしれません。それまで自分の話の流れにそって、内容を伝え返してくれたカウンセラーが、今度は唐突に、自分の話の流れや文脈にないことを言い始めるのですから困惑しても当然です。何を言われているのか、皆目わからない場合があっても不思議ありません。でもこれは、ちょうど自分の頭になんことを指摘された子どもの戸惑いに似ています。叱られたり、未知のことを教えられたりする時は、たいていこのボタンではないでしょうか。ぼかんとする子が多くてもつなずけます。相手の文脈を読む読解問題に弱い子も少なくないのですから。

大学で教えていても痛感しますが、学生や子どもたちに未知のこと、文脈にないことを「伝える」には、まず文脈づくりから始める必要が生じます。それには、すでに彼らがついている文脈を理解しておく必要も生じます。彼らのもつ文脈は一人ひとり違うのですから、同じことを聞いても、全員がそれぞれ別々の勘違いをしてしまうことさえ考えられます。子どもたち一人ひとりの文脈に配慮しながら、子どもたちの頭になんことを伝える学校の先生方のお仕事は、何て大変なんだろうというも思います。相手の頭にはないことを「伝える」時、カウンセリン

カウンセラーの要約や明確化で、「語り手」は自分の言いたかったことをより明確にできます。それによって「語り手」自身の思考が深まったり、新たな感情が体験されたりするのです。

おもしろいことにそうしたカウンセラーの「伝える」働きは、国語の読解問題によく似ています。登場人物の気持ちや筆者の主張の要点をまとめる記述問題です。相手の「語り」の要点を的確にまとめて伝え返さないといけません。難度の高い文章だと、理解したはずの文脈でも、正確な回答が難しくなります。相手の話の文脈を的確につかむことは意外に難しいのです。

要約が読解の問題であるように、カウンセラーの「伝える」は、実は聴くことの延長です。もちろんカウンセリングが進めば、今度はカウンセラーの中にわき起こってきたことを「伝える」ことになります。これは、先ほどの相手の「語り」の要点を伝え返すこととはある意味で対照的です。それは、相談に訪れた人の視点に立つとよくわかります。カウンセラー側にわき起こってきたことは、必ずしも相談に訪れた人の文脈とは一致しません。岡目八目で、カウンセラーは客観的に状況を把握できます。相談者がまだ気づいていない問題点に気づくこともあります。当然、相談者の話の文脈にはまだ含まれない

グではとても気を遣います。例えばその人が気づいていない問題点を「伝える」場合、問題となる行動が面接の場に再現されたり、実生活の中で繰り返し類似の問題が生じて、面接でもそれが話題になったりするのを待ちます。まだ明確に意識されてはいないけれど、問題が次第に露（あらわ）になってくるのを待ちます。面接の場に、問題が象徴的な形で現れればチャンスです。二人の間で問題が共通に体験されるのですから、相互に「文脈」を共有できます。「あれおかし」「と二人が共に感じた、その時に初めて、「どうしてこうなるのか不思議だね」と指摘することができます。でもその場合にも、指摘は断定ではなく、「ご本人の問題意識を喚起する疑問形です」。

教室の中はカウンセリングルームとは違い、大勢の子どもたちを抱える待ったなしの場です。ですから、カウンセリング場面のような、のんびりかまえた文脈づくりは不可能かもしれません。けれど例えば、行事での体験や、授業展開に「仕掛け」をつくることで、周到に文脈を用意し、洞察の場面を導き出す優れた実践も多いと思います。子どもや保護者に問題点を直接指摘しても、こちらが思つ以上に理解されないことも多いもの。スムーズに問題を共有するためには、学校現場ならではの「仕掛け」「文脈づくり」が甚大な力をもつのだなと感じます。